

信州大学附属図書館の デジタルアーカイブの 現在とこれから

2023年12月7日

信州大学附属図書館

岩井 雅史

長野県内のデジタルアーカイブ

■ 史資料・文化財

- [長野県内デジタルアーカイブ等一覧](#)
(信州地域史料アーカイブ内)

■ 地域活動

- [d-commonsプロジェクト](#)

■ 災害記録

- [2014年神城断層地震震災アーカイブ](#)
- [“猪の満水” \(令和元年東日本台風\) 災害デジタルアーカイブ](#)

信大図書館のデジタルアーカイブ

- 近世日本山岳関係データベース
- 松本女子師範学校郷土資料・多湖文書
- 語りつぐ“濁流の子”アーカイブス
- (信州大学 大学史資料センター)

近世日本山岳関係データベース

- 小谷コレクション※の和古書585点、古地図等68点

※8000点に及ぶ古今東西の山岳関係資料コレクション

- 開発経緯

- 2010年度に科研費で電子化及びシステム構築
- 2014年度に科研費でビューワ機能を拡充

<https://www-moaej.shinshu-u.ac.jp/>

語りつく“濁流の子”アーカイブス

- 三六災害※に関する文集『濁流の子』や、当時の資料群（写真、新聞記事、映像・音声、書籍等）

※1961年6月豪雨による伊那谷での河川氾濫や土砂災害。死者・行方不明者136名。

- 国土交通省天竜川上流河川事務所、天竜川総合学習館
かわらんべとの共同事業

- 開発経緯

- 2013年 「人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト」内で事業開始
- 2014年 『濁流の子』編者・碓田栄一氏より寄附
- 2015年 システム公開
- 2019年 コンテンツ公開完了

<http://lore.shinshu-u.ac.jp/>

松本女子師範学校郷土資料・多湖文書

- 前身校の一つ、松本女子師範学校に伝わる和古書。そのうち多湖文書は、松本藩の藩校の教授を代々務めた多湖家の蔵書・文書類。
- 2002～03年ごろに、試験的に電子化を行い公開
- 解題・注釈は人文学部教員による

<https://www-lib.shinshu-u.ac.jp/eddb/>

信州大学 大学史資料センター

■ 2017年に設置

■ 業務内容

□ 大学史資料の収集・整理・保存

□ 大学史資料のアーカイブ構築

□ 大学史資料の公開・展示

ほか

■ アーカイブ構築の状況

□ 寄贈資料を個別的にウェブで紹介

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/news/donation/>

□ 当初はJAIRO Cloudを念頭に置いていたが……

信大図書館のデジタルアーカイブの課題

- システムの陳腐化
- IIRF 未対応
- ジャパンサーチ 未対応
- ライセンス表示の不足
- 電子化の停滞

課題への対応

■ 資金の確保

- 学内資金の申請
- 外部資金の申請

■ 構築したいシステム

- 複数のデジタルアーカイブを同じプラットフォームで管理
 - 図書館以外の学内のデジタルアーカイブニーズにも対応可能に
- 画像のIIIF対応
- メタデータのジャパンサーチ対応
- 適切なライセンス表示

活用の可能性 (例)

- 山岳科学研究拠点の研究
 - 大学史資料の自校史教育への活用
 - 信州ナレッジスクエア (信州サーチ) との連携による信州の「知」の充実
- etc.

今後に向けて

- デジタルアーカイブについての方針の策定
- 経常的な維持費の確保
 - デジタルアーカイブの意義を学内に説明し理解を得る必要
→ 利活用の実績まとめ
- 人材の育成
 - 資料・分野の理解
 - 技術（撮影、システム、メタデータ、セキュリティ）
 - 法と倫理の知識 など

参考：デジタルアーカイブジャパン推進委員会実務者検討委員会「『デジタルアーカイブ活動』のためのガイドライン」2023年9月
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/pdf/guideline_2023.pdf

デジタルアーカイブの方針の例



信州大学附属図書館の理念・目標

理念

信州大学附属図書館は、信州大学の理念を実現するため、教育・研究の学術情報基盤組織として、『学生の学習支援』、『学術情報の提供』、『**人類の知的活動の蓄積と発信**』、『国際交流』、『**地域に根ざした文化の振興**』を進めます。また、長野県5拠点のキャンパスにある専門図書館の特性を生かしてオンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学にふさわしい図書館を目指します。

目標

- 知の支援（学習支援）学生の豊かな創造性・人間性・社会性を養うために、自立的学習やキャリア教育を支援する資料の整備を図り、種々の知的活動に対応した多様な学習形態に合わせた利用空間・環境を提供します。
- 知の拠点（学術情報基盤整備）教育・研究上のニーズを常に把握し、必要な学術情報や資料を体系的に整備し、先進的な教育・研究環境を提供します。
- 知の発信（教育・研究活動の蓄積と発信）信州大学の先端的な教育・研究の成果を「信州大学学術情報オンラインシステム（SOAR）」により収集・蓄積し、世界に発信します。
- 知の国際交流（国際交流）諸外国からの学生・研究者や世界へはばたく信州大学の学生・研究者が必要とする資料・サービスの充実に努めます。
- 知の提供（地域貢献）地域文化の振興のため、地域社会との連携を積極的に推進し、地域に根ざした図書館を目指します。
- 知の集積（専門性）それぞれのキャンパスにある図書館は、専門図書館のそれぞれの特性を生かし、連携により総合的なサービスを提供します。

デジタルアーカイブにつながる部分

- 成果の蓄積・発信
- 地域文化の振興

今後とも地域とともにある
デジタルアーカイブを

ありがとうございました